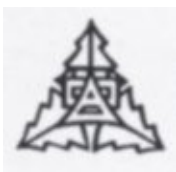


「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No. 10

令和4年12月23日発行 校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子

徳 心豊かで思いやりのある子

体 進んでやりぬくたくましい子

## 明日から冬休みです

太田 等

一年の中で最も長い第2学期が本日終了しました。今学期は、運動会、クロスカントリー記録会、学芸会など大きな行事が続いて行われましたが、子どもたちは、それらを通してそれぞれに多くを学び、心身共に一歩も二歩も成長したことと思います。

特に相手に対し、きちんと敬意（相手を尊重）をもった態度で挨拶しようとする子どもが多くなったように思います。こうした姿には、より良くなるとうとする向上心がごく自然な敬意の振舞として垣間見られます。

令和元年版子ども・若者白書（内閣府）に、日本の若者は自分自身に満足していたり、長所があると感じていたりする割合が、諸外国の若者と比べ、最も低いという記述がありました。これは、我が子には「健やかに成長してほしい」「自分らしく輝いてほしい」との親の願いとは裏腹なものとなります。

子どもが自分に自信を持ってないという背景には様々な状況がありますが、その一つに子の「自己肯定感（※「自分はできる」など、自分に自信を持っていること）」を育むことがいかに大切かを知る親世代が少ないという点が挙げられています。

子どもの自己肯定感を高めるには、「子ども自身が自分にはよいところ（=価値）があると自分で理解し、親や周囲に認められることで、自分の内側から出た意思として、チャレンジすることが大切になってきます。」（『自己肯定感で子どもが伸びる』ダイヤモンド社 古荘純一著）

一般的に、子どもの自己肯定感を高めるには「褒める」ことが有効とされ、その際、「条件褒め」と「無条件褒め」の2種類を使い分けると効果的です。「条件褒め」は、子どもが、何かの条件（課題等）を成し遂げた時に、「宿題よくできたね！」「一人で留守番できて偉いね！」などの褒める言葉です。一方、「無条件褒め」は、「生まれてきてくれてありがとう」「どんなあなたでも愛しているよ」など、子どもの存在自体を認める言葉です。

特に「条件褒め」よりも「無条件褒め」が重要です。「失敗しても受け入れてもらえる」という絶対的な安心感が、失敗することの恐れを取り除くとともに、自分の判断で、失敗と成功体験を積み重ね、その中で、子どもの人格が磨かれるとともに、その子の個性が一層輝きを増して行くからです。『教育は共育』と言われます。子どもをいかに『一個の人格』として尊重し、「共に成長していこう」という共生の意識がポイントになります。

明日から24日間の冬休みが始まります。普段できないことが、できる期間でもありますので、各ご家庭において、有意義にお過ごしになっていただければと思います。

保護者地域の皆様には、たくさんのご理解とご協力を賜り、第2学期を無事終了させることができました。改めて御礼申し上げます。第3学期始業式は令和5年です。子どもたちの元気な登校の姿を職員一同、心よりお待ちしております。本年も後数日となりましたが、どうぞ良いお年をお迎えください。